

6) 勤務医に対して

現在、医師会の加入者は勤務医の方が多くなっているが、未加入者も勤務医が圧倒的に多い。

北海道医師会では勤務医の意見を取り上げ、就業環境を改善すべく種々の事業を行っている。勤務医懇談会、勤務医部会全体会議、医師の就業環境づくりを支援する事業周知のための臨床研修指定病院訪問などである。平成25年度は道内9医療機関を訪問し医師会の事業や活動内容を説明している。

若い勤務医にとって医師会に入りづらいのは、勤務地が変わるたびに地区医師会に入り直さなければならないことである。道内に勤務している限りは自動的に地区医師会を変更できるシステムができないかと考えている。

7) 女性医師に対して

今や医科大学入学者の3割以上が女性である。

今後さらに増えると予想している。北海道医師会では女性医師が出産、育児で仕事を辞めてしまわないよう、1人でも多く医師会に入ってもらおうよう活動している。事業を通して医師会に入会してもらおうようしている。

女性医師等復職研修支援事業、女性医師等支援相談窓口事業、子育て支援事業、女性医師の勤務環境の整備に関する病院開設者、病院長、管理者等への講習会等々である。

8) 専門医制度に連動して

今年の5月7日に日本専門医機構が発足した。2020年度より新制度の専門医が認定される予定である。幅広い視野の人格を育てる意味でもこの機会に認定試験の受験資格に医師会入会を条件にしてはど

うか。勤務医や大学医師会の入会者は増えるであろう。

9) 会員と非会員の差別化

平成25年度会員数が一番増えたA県では産業医の研修会において会員は無料、非会員は有料というようにして回数が多くなると会員になった方が良くと思わせるような方策をとっている。

道医でも一部の研修会においてはすでに実施しているが、今後さまざまな研修会において考えなくてはならない。

10) 郡市区医師会の高額な入会金について

本州の郡市区医師会では入会金が非常に高額な所が見受けられる。これは、御典医だったり、先祖代々医者で長く医業を継いだ者が他の者の開業を排除してきた歴史がある。

今の時代、医師会員を増やそうとしている時に、その入り口で諦めさせるのは得策ではない。今後検討すべき課題である。

おわりに

医師会に入会するのは任意であり、弁護士のように弁護士会に入会しないと活動ができないわけでもないため、加入促進はとて難しいことである。医師1人ずつが崇高な理念とこの国の医療のため医師会に入って大同団結してもらうしかない。

北海道医師会の取り組みや私見からも書かせてもらったが、今後は「会員加入促進に関するプロジェクト委員会」を設置して検討していく所存である。

皆様方の御理解、御協力をお願い申し上げます。

お知らせ 平成26年経済センサスー基礎調査等の実施について(お願い)

◇北海道から◇

総務省・経済産業省では、わが国のすべての産業分野における企業・事業所の基本的構造を明らかにすること等を目的に、統計法(平成19年法律第53号)に基づいた報告義務のある基幹統計調査として、すべての企業・事業所を対象とした「経済センサスー基礎調査と商業統計調査」を一体的に実施いたします。

つきましては、対象となる事業所には、6月下旬に調査票が配付されることとなっておりますので、各位におかれましても、趣旨をご理解いただき、調査へのご回答をお願いいたします。

(北海道ホームページ「経済センサスー基礎調査」について)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/003ecc/26koho.htm>

(北海道医師会総務部)